

ファンタジー カラーモルタル 厚塗り工法

カラーモルタル厚塗り工法とは（鏝で3～10mmの厚みで塗る工法です）

【概要】

基本的には一般のセメントでモルタルを施工する要領と同じです。

使用するカラーハードナーの別用途として土間塗り・壁塗り・タイル、レンガなどのカラー目地・セメント造形・スタンプコンクリート・ステンシルコンクリート・どろコンなどに使用します。

【下地処理】

良い仕上げには既設の表面の下準備が極めて重要です。

下地の表面の汚れ（油、グリース、泥等）はコンクリートクリーナーを使って落とします。リフォームなどでは下地を清掃しカビが生えている場合はカビ落としを使います。

コンクリートの表面が塗料で着色してある場合は、洗浄する前に塗料剥離剤かコンクリートグラインダーで削り取ります。

大事なのは浮が生じないように下地処理をすることです。

【下地プライマー塗布】

フロープライマー（1リッター = 2.0㎡ : 18リッター容器 = 36.0㎡）

まず下地のコンクリートに余分な湿気がないかどうかを確認、専用のフロープライマー1に対して水4の割合で混合液を作ります。柔らかい場合は、ローラーを使って溶液を1～2度塗りします。

コンクリートが非常に古く、浸透しやすいものであれば、フロープライマー1に対して水4の割合で作った溶液をたっぷり浸透させ2～3回繰り返し行わなければならない場合もあります。

【材料の攪拌】

カラーハードナー + 水のみ又は、プライマー溶液（水 4 : プライマー 1）
（20KG） （3.8～4.3リットル） 冬夏の気温などで微調整ください



冬夏の地域差で多少違いますが水を 3.8 ~ 4.3 リットル又は上記の要領で作った 3.8 ~ 4.3 リットルにカラーハードナーを少しずつ加えながらマゼラーで3~4分間ほど攪拌した後4~5分間ほど間隔を置いて再度2分間ほど再攪拌します。

夏場はどの様なセメントでも気温の影響で硬化時間がかなり早くなります。

ミキサーや容器の中で絞まるのが早くその為、水や溶液を多めに入れると水比が多くなり強度不足と亀の子割れを起こし浮きにも影響しますのでくれぐれもご注意ください。

対策としてはハードナーを日陰や涼しい場所に置く事と混ぜ水の温度を低くすることです。いぶん違ってきます。練り置きのもルタルが固めになったら水を混ぜるのではなくマゼラーで練り戻しをするとまた柔らかくなります。

10mm 仕上の厚塗りの場合は粗砂が1分以上の骨材の混入をお勧めします。

【カラーハードナー鍍塗り】

下地のほこりなどを清掃後、下地にプライマーを塗ります。

プライマーが乾燥後、上記の様に攪拌した材料を鍍で塗ります。

20kg 袋で 3mmの塗厚で 4~5㎡をカバーします。

【シーリング】上塗りシーラー #3200 20リッター 2回塗りで 50㎡

トップコートをシーリングする事で、汚れ防止やカラーも濡れ肌の鮮やかな色を保つことが出来ます。

暖かで、2~4mmの厚さであれば、シーリングも同じ日に行えます。上塗りシーラー(#3200)を2回塗ります。シーラーはできるだけ薄くムラ無く塗ってください。温暖あるいは熱い場所ではシーラーを厚く塗りすぎると、コンクリートの表面や目地に泡を生じる原因となります。その場合1回目の塗布はシーラーを最大限15%溶剤で薄めて塗ると効果的です。気温が高い日は、一日のうちで最も涼しい時にシーリングしてください。シーラーは柔らかいハケ・専用ブラシかローラー、またはエアレススプレーガンで塗布してください。

室内や臭気が気になる場合は水性のシーラーをお勧めします。

【使用上の注意】

雨天の場合や気温が5℃以下では乾燥・養生時間が大幅に遅れるので、工事は避けた方がよいでしょう。また表面温度が35℃を超える場合も早乾きや養生に影響を及ぼすのでお勧めしません。

したがって、気温が非常に高い日には、テントや作業部分に日陰を作るとよいでしょう。

本製品を使用者の指定場所に納品後の貯蔵管理は使用者が十分に管理して下さい。

納品後の雨濡れや湿気による硬化などに関しては販売元の関知するところではない為一切の責任は負いかねます。使用者は本製品が使用目的に適うものであるか確認してください。異なった目的に使用する場合は、使用者の責任において用いてください。